

九州大学経営協議会議事概要

日時：令和5年3月23日（木）15：00～16：37

場所：対面およびwebにより開催

出席者：28名中18名出席

【審議事項等】

1 令和5年度予算等について

令和5年度予算等について説明があり、審議の結果、これを議決した。

2 本学における職員の定年引上げ等について

本学における職員の定年引上げ等について説明があり、審議の結果、これを議決した。
なお、以下のような意見交換があった。

- ・組織の運営にとって給与は非常に重要なので、60歳に達した職員の給与が大きく下がらないように配慮して欲しい。
- ・60歳以後の職員の異動に関して、「下位」という表現は職員のモチベーションが下がる可能性があるため、表現を改めたほうが良い。
→「下位」という文言については下の職種ということ客観的に記載しているものではあるが、表現については今後工夫する。
- ・60歳以後の職位については、配置のプロセスを職員に明確に示さないと内部的な不満等が生じる可能性があるが、職員へ明確にする仕組みはあるのか。
→制度改正により、職員のモチベーションが下がることは良くないので、そのような事態を避けるために運用を適切に工夫したい。

3 国際卓越研究大学構想について

国際卓越研究大学構想について説明があり、以下のような意見交換があった。

- ・国際卓越研究大学では、研究分野を絞り集中的に投資や人材育成を行うものではないのか
→脱炭素、医療・健康、環境・食料の3つのエントリポイントを中心に、人文社会系も巻き込んだ上で、研究力を更に上げて成果を社会に展開したいと考えている。
併せて、国際卓越研究大学の体制強化計画の期間は最長で25年間となっており、将来を担う若手教員のために得意とする新しい研究分野を伸ばす仕組みを作りたいと考えている。
- ・九大とOISTのそれぞれの強みや特色を活かした連携・協力関係が構築されることは双方にとって非常に有益な連携になると期待する。
- ・県としては、海外からの投資、あるいは企業誘致等において九大と連携して積極的に取組んでいきたいと考えている。九大が国際卓越研究大学に認定されれば、教育研究環境が更に充実し、成果を生み出すことが出来ると期待している。
- ・九州沖縄地区国立大学の連携においては、各大学の強みとなっている研究分野に特化した連携が望ましい。
- ・教員組織の大転換を進めるにあたり、文系分野においては、基礎文系的あるいは社会科学的な基盤を強化しながら、社会課題の解決ができる研究者を育成することを考える必要がある。

4 国際卓越研究大学における合議体の在り方等に係る検討について

国際卓越研究大学となる大学は、最高意思決定機関として合議体の設置が求められており、合議体は、法人の長の選考・解任の申出、大学の運営に関する重要事項を決定する権限を有する会議体であるが、今後は、構成員の属性なども含め、合議体の在り方の詳細な検討について、経営協議会において検討を進めたい旨、併せて説明があった。

【その他】

- ・令和5年4月1日からの本学執行部体制について、紹介があった。
- ・次回の経営協議会は令和5年6月22日（木）に開催予定である旨の案内があった。

【懇談】

- 1 「九州大学が紡ぐ食料生産研究の展望と決意～未来の食料生産のために～」と題して九州大学における研究活動の紹介があった。

（ 以 上 ）